

スタディツアー参加者からの報告 (日刊新周南 連載記事から)

藤屋侃二さん(68) 下松市幸ヶ丘 元KRY取締役ラジオ局長



モン族の盛装をした中高生と

少数民族モンを訪ねる
～モンの歴史～



サビエル生誕五百年

巡礼の道

122

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

現在のモン族は文字を持ってないが、昔は文字を持っていたという。かつてモン族はビルマ

文字など東南アジアの文字形成に大きな役割を果たしたと言われているが、支配民族がモンの力を弱めるためモン文字を使うことを禁止し、長い年月の中で、モンの人たちは文字を失った。

刺しゅうのタベストリイなどに残されたモンの生活様式以外に記録がなく、モンの歴史は謎の部分が多い。

ディアスポラ、民族離散という言葉はユダヤ民族が紀元七〇年ごろ古代ローマに滅ぼされ、各地に散り散りになったことを言うと思っていた。

しかしディアスポラは

民族の生活様式を描いた
タベストリイ



住み、貧しく、学校に行けないモンの子どものために作った学生寮などを訪ねたのだ。

今こそモン族は山岳少数民族と言われているが、彼らの歴史は古く、輝かしいものがある。

帯に多くが住んだ。フランスの植民地であったラオス、ベトナム、カンボジアで民族独立運動が高まり、インドシナ戦争となり、モン族もこの内戦に巻き込まれ、モンの悲劇が起きた。

州省付近に多く住んでいたらしいが、支配民族となつた漢族に追われ、中国南部に移動した。さらに南下し、ラオス、ベトナム、ビルマ(現ミャンマー)、タイなどの東南アジア一帯に住むようになる。紀元前三〇〇年ごろから紀元一〇〇〇年ごろは特に繁栄し、ハリブンチャイ王国を建てた。

古を願って、民族独立側ではなく、植民地政策をとる欧米側に味方した。このためベトナム、ラオスなどが独立する中で、モンは住んでいたラオスを追われる身となる。

その後、王朝は替わりますが、一七五七年に最後の王朝が倒れると衰退し、第二次世界大戦後にはラオスの山岳地

そして、植民地化されず、欧米に親しいタイに多くのモン族が流れ込んだ。タイの難民キャンプに入った者も多いが、ラオス国境近くのタイ山岳地帯に住みつき、そこで自給自足の貧しい生活を送っている。以上が簡単なモンの歴史である。

府組織)が山岳地帯に

日本のNGO(非政府組織)が山岳地帯に

からの報告をしたい。(元山口放送取締役ラジオ局長)

—シャンティ山口教育支援募金にご協力をお願いします。—